

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

## 公益財団法人協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫  
両団体理事長 半 田 晴 久  
新エネルギー委員長 中 島 稔  
両団体専務理事 清 原 淳 平

### 新エネルギー委員会のお知らせ (第323回)

日 時 平成30年6月5日(火) 午後1時半～4時  
場 所 衆議院第二議員会館 地下1階 第2会議室  
千代田区永田町2-1-2

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より4分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車3分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。また、会議開始後にお越しの方は、受付に「第2会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

- 議 題
- 1、最近の再生・新エネルギーについて思う  
挨拶 中島稔新エネルギー委員長
  - 2、メタノール水溶液水素発生装置とその実用化  
解説 亀田光昭新エネルギー研究所代表
  - 3、『新エネルギー関連ニュースNO.176』  
解説 中島稔新エネルギー委員長

報 告 去る5月8日開催の第322回新エネルギー委員会は、中島稔新エネルギー委員長が議長を務め行われました。  
まず、中島委員長より、「最近の再生・新エネルギーについて思う」と題して開会挨拶がありました。世界では再生可能エネルギーの拡大が続き、水力発電を含めて電力供給の25%を占めている。日本では特に風力発電の停滞が目立ち、15%強と大きく出遅れている。再生可能エネルギーのコストは下がり続け、太陽光発電のコストは1kwhあたり1セントにまで下がってきている。

次に、中島稔委員長より『新エネルギー関連ニュースNo.175』の解説がありました。今回は、○中国の急速な電気自動車シフトに危う

さ。長い充電時間や少ないインフラといった問題は急には解決しない、という予測もあり、中国のいう20%台ではなく10%程度にとどまるのではないかと。また、補助金目当てにメーカーが林立しているが、90%は淘汰されるという予測もある。○蓄電池向け液晶分子の開発。イオンを効率よく伝える。○全固体リチウムイオン電池の国際標準化に向け、日本が主導すべく動いている。○経産省が水素基本戦略を策定。30年に商用化を目指し、液化天然ガス火力発電と同等までのコスト削減を目指す。○ゴムの古木からバイオマス燃料を製造。○アンモニアをクリーン燃料に変える新触媒、○アンモニア混焼で火力発電のCO2削減、などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

まず、清原淳平専務理事より、本日の講師・駒場慎一東京理科大学応用化学科教授の経歴紹介がありました。

次に、駒場教授より、「カリウムイオン電池の高濃度イオン電解質液」と題して解説をいただきました。カリウムイオン電池の基本構造はリチウムイオン電池と変わらないが、毒性がなく、レアメタルを必要とせず、コストを下げられ、資源の制約もない。カリウムイオン電池の欠点として、充放電を繰り返すうちに電極が劣化し、容量が急減してしまう点があった。そこで、高濃度電解質液を開発した。電解質液には、ジメトキシエタンという有機溶媒でカリウムイオンが動きやすくなることが分かった。正極にはプルシアンブルー(紺青)が適していることが分かった。300回充放電を繰り返し、容量を95%維持できた。負極の黒鉛もほとんど劣化しなかった。紺青は鉄やマンガンなどの安価な物質でできており、コバルトなど高価な金属を使うリチウムイオン電池に比べコストダウンが可能だ。今後、太陽光や風力など供給が一定ではないエネルギーの蓄電用としても、大型バッテリーに蓄える方式などを検討している。

★レクチュアにつき、当日会費 会員千円にご協力を。  
次回、6月5日(火)の新エネルギー委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 \_\_\_\_\_

貴方様のFAX \_\_\_\_\_

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。  
非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。  
(その際の会費は二千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール [kiyohara@jidaisassin.jp](mailto:kiyohara@jidaisassin.jp)

当日連絡先 080(8836)6203 (重田) 080(9292)2620 (高津)